



うさ本ファミリー

# 楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第96号

発行日

2015年5月19日

(毎月19日刊行)

## 司書のオススメ本

～ともだちがテーマの絵本～

<企画展示コーナーから選んでみました>

一昨年の冬、慣れ親しんだ保育所を離れ、新しい保育所に通い始めた時、娘に「見えないお友だち」ができました。

友だちの話をする、「〇〇ちゃんが橋（高さ3メートル以上あり）から落ちたけん、助けてあげたんで！」など、不審な点が多いのです。心配になり先生に尋ねると、「〇〇ちゃん」は実在せず、想像力の豊かな子には、「見えないお友だち」ができることが、ままたのことでした。

心配しなくてよいと分かった後も、しばらくの間、やきもきしていましたが、実在の友だちができると、「見えないお友だち」はいなくなりました。(T)

新しい本が  
入りました。

( )内の数字は  
棚の番号です

『体にやさしい妊活漢方』

小島晃／著

現代書林／刊

2015.5

(支援1-2)

『子どもといっしょに季節の食しごと&保存食』

江口恵子／著

マイナビ／刊

2015.4

(支援2-2)

<おすすめbook>

『けんかのきもち』

柴田愛子／文, 伊藤秀男／絵

ポプラ社／刊

『たかこ』

清水真裕／文, 青山友美／絵

童心社／刊

『とんことり』

筒井頼子／さく, 林明子／え

福音館書店／刊



『家族を撮る。』

子どもとの10年を残す、デジカメLesson

』

藤本陽子／〔著〕

マイルスタッフ

／刊

2015.5

(支援2-1)

『2か月でみるみる変わる!できる親子コミュニケーション59の習慣』

岡本真／著

本分社／刊

2015.5

(支援3-1)

企画展示

「お付き合いのヒントBooks」展

子育て支援コーナーにて、平成27年5月31日(日)まで開催中!

# 子育て応援団を紹介します。 第2回

## NPO法人 わははネット理事長 中橋恵美子さん②

NPO法人（特定非営利活動法人）わははネット理事長の中橋恵美子さんにお伺いしたお話の後半を掲載します。

Q3 設立当初、苦労したことはありますか。

A 育児サークルで公共施設の和室を使いたいというと、子ども連れは嫌がられ、使いづらかったことです。当時、育児サークルの窓口になってくれるところもなく、自宅の電話がサークルの連絡先だったので、ようやくわが子をお昼寝で寝かしつけたら、電話のベルが鳴って子どもが起きることもありました。今は、保育所やコミュニティセンター等が窓口になってくれるので、活動しやすくなったと思います。



現在は、県内各地で無料配布されています。

Q4 情報収集方法はどのようにされていますか。「おやこDEわはは」も毎号とても充実した内容ですね。

A 情報を収集するまでもなく、子育て応援スペース「わはは広場」を利用する親子の小さな不満や愚痴、困ったことを聞き逃さず丁寧に扱い、同じ事でのどのくらい困っている人がいるかを調査し、ニーズを把握しています。約4,000名の「わははメール」会員さんからの情報もあります。

「おやこDEわはは」は、平成11年創刊当時、1冊120ページ、650円で年1回発行、書店販売していました。忙しいお母さんたちが、表紙を見たら内容が分かり、買うかどうか判断しやすいよう工夫していました。その方針は現在も同じです。経済的にも大変な中で、どうやったら手にとってもらえるかを考えていました。創刊当時、香川の子育て情報誌がなかった

ので、今、中学生くらいの子どもがいるお母さんには、「これがあって、とても助かった」という熱烈的な「わはは」ファンが大勢います。

Q5 今後の展望、運営方針

A 今、子育て支援活動に限っていうと、働く女性の増加という時代背景、流れもあり、地域で活動する人の数は減っていると思います。女性の活躍により仕事をしているお母さんが多いので、企業の変化や社会の受入れも含めて暮らしやすい環境を作っていきたいです。



「わははひろば・高松」のようす

Q6 子育て中の方へのメッセージ

A 子育て期を我慢の時期にせず、子育てしているからこそ「あれができた、これができた」とのプラス思考で考えてほしいと思っています。子育ての時期だからこそ、できることを増やしてほしいと思います。例えば、子どもに絵本を読み聞かせていて、自分が幼かった頃のことを思い出したりしますよね。それは素敵なことです。当たり前のことのようですが、気づかなければそれまでです。子どもがいたからできたという、気づきをしてほしい。「早く職場に戻りたい」ではなく、今の時期は、子どもに関わって行こうと思えるように、つながればよいと思う。

子育てしている人は「お母さん」としての一面だけではなく、暮しをしている生活者、妻、親から見れば娘である、という側面があります。子どもが絵本を読んでいる間に、お母さんが大人の本、好きな本を読む余裕がもてればよいなあと思いますし、そのお手伝いが出来ればと思います。